



東白川小だより

令和4年10月17日(月) №8

東っ子の課題を考える



教務主任 桂川 こすえ

～全国学力学習状況調査及びそれに関わる質問紙調査の結果より～

今年度がスタートして間もない4月19日に全国学力学習状況調査（国語・算数・理科の3教科と質問紙調査）が行われ、その結果がこの夏に出ました。東白川小では、6年生19名がこの調査を受けました。結果は6年生の4月時の姿が反映されたものですが、他学年にも同じような傾向があると考えられます。課題となる事柄については、各ご家庭でもこのことを話題にさせていただきながら、改善できるところから取り組んで頂ければと思います。学校はこの結果を貴重な指導資料として、日々の授業を充実させることを基本に進めて参りたいと思っております。

6年生の学習状況は、国語は全国の平均正答率とほぼ同じ、算数・理科は全国の平均正答率よりやや下回る結果が出ていますが、あくまでも全体としての傾向であると捉えております。一人一人の児童が結果を振り返り、今後に活かしていくことが最も重要です。また、質問紙調査においては、東白川の地域性が良い方向に反映されている項目もあれば、考えていかねばならない項目も見られます。

10・11月中に、6年生には全国学力調査の個票を元にアドバイスをし、他学年についても学習や生活について担任と懇談をする時間を作ります。それぞれが充実した学校生活、家庭生活を送れるようにつなげていきたいと思っております。

【6年生学力調査の結果から】

国語

- 話し言葉と書き言葉の違いを理解すること、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができている。
- 必要なことを質問し、話し手が相手に伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができている。
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がある。

算数

- 基本的な計算問題、数量や図形についての基本的な知識理解ができている。
- 数量の関係を捉え、除法の式の意味を説明することなどができている。
- 「変化と数量」の領域で、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、未知の数量を求めることの理解に課題があった。

理 科

○実験の過程や結果について選択する形式では正しく答えることができています。

○観察・実験などの結果について自分や他者の気付きを基に解釈し、問題を見いだすことができる。

●「エネルギー」「粒子」を柱とする領域問題は、やや課題が見受けられた。

【質問紙調査の結果から】

○地域の行事に積極的に参加している、学校に行くことが楽しいと感じている子が、全国・県を大きく上回っている。

○朝食をしっかりと食べてきている、10時前には寝ているという子の割合も高い。

○人が困っているときは進んで助ける。いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。人の役に立つ人間になりたいと思う。友達と協力するのは楽しい。物事を最後までやり遂げてうれしかった経験がある児童が全国・県平均を上回っている。

○将来に対する「夢」や「目標」を持っている子の割合が高い。



児童が自己肯定感を持ちながら安心して学校生活を送っていること、ふるさと東白川村を愛し、地域に貢献していきたいと願う児童が多いことがわかりました。

今後も子どもたちのよさを認め励まし、将来の夢や目標に向かってたくましく生きていく児童の育成に取り組みます。

【今後の課題】

平日どれくらいの時間 SNS や動画視聴をしますか。

「4時間以上」	本校	0%	全国小6	10.9%	中3	15.4%
「3時間以上4時間より少ない」	本校	5.3%	全国小6	8.8%	中3	13.8%
「2時間以上3時間より少ない」	本校	5.3%	全国小6	12.8%	中3	22.5%
「1時間以上2時間より少ない」	本校	26.3%	全国小6	18.1%	中3	23.9%

平日どれくらいの時間テレビゲームをしますか。

「4時間以上」	本校	0%	全国小6	17.2%	中3	16.1%
「3時間以上4時間より少ない」	本校	5.3%	全国小6	13.5%	中3	13.4%
「2時間以上3時間より少ない」	本校	26.3%	全国小6	19.5%	中3	20.4%
「1時間以上2時間より少ない」	本校	42.1%	全国小6	26.9%	中3	21.1%

平日1時間以上テレビゲームをしている 本校 73.7% 岐阜県 77.1% 全国 76.7%

平日1時間以上 SNS や動画視聴をしている 本校 36.9% 岐阜県 48.3% 全国 50.6%

という結果でした。

全国的には、小6の半数、中3の7割以上がスマートフォンで SNS や動画視聴を1日1時間以上やっているという結果です。（小6は50.6%、中3が75.6%）

利用時間と各教科の平均正答率を分析したところ、利用時間が長いほどテストの平均正答率が低い傾向も判明したと文部科学省の担当者は話しています。

読書をすることが好きな児童が多いですが、平日授業時間以外に読書をしている児童は少なく、全くしない（31.8%）10分より少ない（10.6%）10分以上30分より少ない（37.1%）でした。

全国的には、新聞をよく読むと高得点という結果がでていますが、新聞を読む習慣がある子は減ってきています。ほとんど、全く読まないは、小学校 72.7%、中学校 78.6%です。



学力調査では、問題文を読んで答えることが多く、長文になると読まずに答える、無回答ということもありました。動画視聴は見て楽しむことができますが、読書や新聞は、自分から読まないといけません。

学校では「メディアコントロール」の取り組みを家庭と協力して行っているところです。

これから先も、「テレビやゲームの時間について」「情報機器の使い方について」も家族で話し合いの時間をもっていただき、時間にけじめをつけて過ごすことや情報機器の危険性についても啓発していきたいと思います。



学習面では、各学期末の評価問題に繰り返し取り組ませたりして、学習の定着をはかっています。

さらに個々が自信を持って取り組めるように支援していきたいです。

また、自分の考えをしっかりとって文章に表し、その考えを仲間に堂々と語れるような授業を仕組んでいきます。



子どもたちが得意なことを見つけ、その個性を伸ばしていくとともに、将来に対する夢や希望がもてるように頑張っていきたいと思います。

